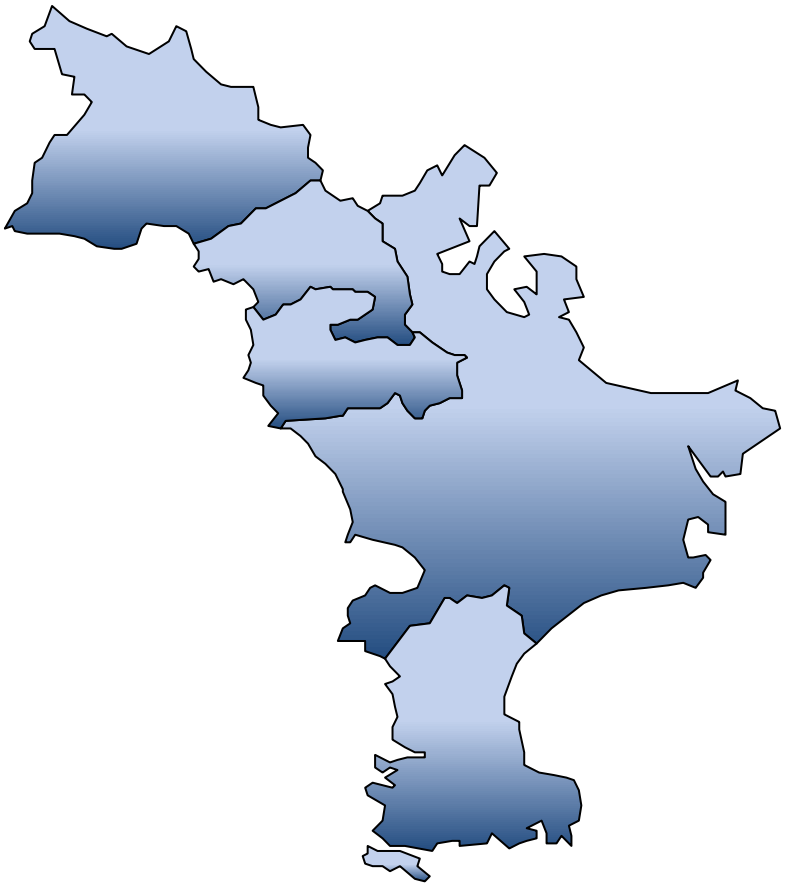
神奈川県

三浦半島魅力最大化プロジェクト

～資源を生かした地域の活性化戦略～

（改定素案）



令和6年12月

目　　次

プロジェクト改定の趣旨 ・・１
プロジェクトの方向性 ・・５
プロジェクトを推進する基盤づくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
プロジェクトのゴール ・・10
プロジェクトの指標 ・・・10
プロジェクトのＫＰＩ ・・10
プロジェクトの構成 ・・・11
プロジェクトの計画期間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

プロジェクト
Ⅰ　観光の魅力を高める
１　海・食の魅力を高める
①　多様な海の楽しみ方の発信 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
②　“みなと”のにぎわいづくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
③　地産地消ブランディング ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

２　地域の魅力を高める
④　広域観光・周遊の促進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
⑤　外国人観光客等受入環境づくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
⑥　新たな観光資源の発掘・磨き上げ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
⑦　湘南国際村の活性化の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

Ⅱ　「半島で暮らす」魅力を高める
３　働く魅力を高める
⑧　しごと「三浦半島スタイル」の展開 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
⑨　産業の活性化 ・・・21

４　住む魅力を高める
⑩　若者や働く世代から選ばれる「半島ライフ」の提案・・・・23
⑪　子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域づくり ・・24
⑫　脱炭素につながる環境にやさしい暮らしの実現 ・・・・・・26

プロジェクトの推進 ・・・27

プロジェクト改定の趣旨

○　三浦半島地域は、首都圏のベッドタウンとして発展してきましたが、近年では、他の地域との地域間競争が激化したことや、丘陵が多く平地が少ないという三浦半島特有の地形の影響もあって、人口減少が続いています。

○　横須賀市では 1992 年の 435,092 人をピークとして減少傾向に転じ、三浦市では 1994 年の 54,339 人をピークとして減少しており、2030 年の将来推計人口をみると、2020 年国勢調査との比較で、三浦半島地域の４市１町（横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市及び葉山町）の全てで人口が減少するとされています（表１）。

○　また、この推計人口の内訳をみると、三浦半島地域全体で、65 歳以上の老年人口の割合（高齢化率）は 34.5%と、県平均（27.9%）を 6.6 ポイント上回る予測となっています（表１）。本県では明らかに人口減少局面に入り、超高齢社会が到来していますが、中でも、三浦半島地域は、特に高齢化が進んでいる地域といえます。

○　一方で、三浦半島地域は都心から 40 km～60 km圏内にあって、都心へも容易に行き来することができる通勤圏にありながら、三方に海が広がり、中央部には三浦丘陵が連なる、極めて自然豊かな地域です。こうした土地柄ゆえ、自然の観光資源が色濃く所在していますし、農畜水産業が盛んで、全国的にもブランド力のある三浦のダイコンやキャベツ、三崎マグロや湘南しらす、特有の肥育技術で育てる葉山牛をはじめとして、多彩な食材を生み出しています。

○　また、東京湾と相模湾に挟まれ、多彩な表情を見せる海岸線には、特定第３種漁港の三崎漁港、第２種漁港の長井漁港・佐島漁港・間口漁港をはじめとして、４市１町の全てに漁港があり、マリンスポーツ・マリンレジャーの拠点となる「海の駅」も７か所あります（図１）。

○　さらに、古都鎌倉や、横須賀の軍港などの近代化遺産をはじめ、４市１町がそれぞれに、歴史と文化に育まれた多彩な資源を有している観光地として、多くの観光客を呼び込んできました。

○　以上のとおり、三浦半島地域は、人口減少が続いている地域である一方、地域振興・人口減少対策を可能にするポテンシャル、他の地域にはない魅力を多数有しています。そこで、県と４市１町が連携して、2015 年３月に、「海」や「食」など、三浦半島地域の多様な資源の魅力を生かした「三浦半島魅力最大化プロジェクト」を策定（2020 年３月改定）し、活性化に取り組んできました。

○　しかし、三浦半島全体の社会増減数をみると転出超過の状況が継続しているなど、引き続き活性化に取り組む必要があることから、これまでの課題や市町の意見を踏まえてプロジェクトを改定することとしました。県及び４市１町では、このプロジェクトの方向性に沿って、地方創生の取組みを重点的に展開し、この地域ならではの魅力を生かしながら、先行的・先進的なモデルづくりを行うことにより、三浦半島地域の活性化を戦略的に進めていきます。

【表１　三浦半島地域４市１町の人口及び将来推計人口】

区　分		2020年		2030年将来推計人口	
		人口	高齢化率	人口〈2020年対比〉	高齢化率
横須賀市		388,078 人	32.2%	350,569 人 〈90.3%〉	34.5%
鎌 倉 市		172,710 人	31.1%	167,601 人 〈97.0%〉	32.2%
逗 子 市		57,060 人	32.4%	53,972 人 〈94.6%〉	33.9%
三 浦 市		42,069 人	41.0%	35,987 人 〈85.5%〉	45.7%
葉 山 町		31,665 人	32.3%	29,800 人 〈94.1%〉	34.4%
三浦半島計		691,582 人	31.7%	637,929 人 〈92.2%〉	34.5%
参考	神奈川県	9,237,337 人	25.6%	9,121,807 人 〈98.7%〉	27.9%
	全国	126,146,099 人	28.7%	120,115,783 人〈95.2%〉	30.8%

備考　2020年の人口及び高齢化率は、国勢調査結果による。また、2030年将来推計人口の人口及び高齢化率は、国立社会保障・人口問題研究所の推計による。

【表２－１　神奈川県入込観光客調査】

区　分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
横須賀市	8,752 千人	4,752 千人	5,616 千人	7,953 千人	8,911 千人
鎌 倉 市	19,022 千人	7,380 千人	6,565 千人	11,958 千人	12,284 千人
逗 子 市	957 千人	464 千人	589 千人	750 千人	853 千人
三 浦 市	6,140 千人	4,018 千人	4,208 千人	4,210 千人	4,709 千人
葉 山 町	655 千人	448 千人	519 千人	613 千人	638 千人
三浦半島計	35,526 千人	17,062 千人	17,497 千人	25,484 千人	27,395 千人
神奈川県	204,668 千人	108,486 千人	117,251 千人	164,062 千人	191,114 千人

【表２－２　神奈川県観光客消費動向等調査】

調査項目		三浦半島地域(鎌倉市除く)		全県	
		2020年度	2023年度	2020年度	2023年度
日帰り客・宿泊客の比率	日帰り	85.4%	91.7%	82.6%	83.6%
	宿　泊	14.6%	8.3%	17.4%	16.4%
平均消費単価	日帰り	4,459円	4,664円	4,625円	4,888円
	宿　泊	16,019円	19,923円	21,399円	28,207円

【図１　三浦半島地域に所在する漁港、海の駅等】

【表３　三浦半島地域における転出入の状況】

男女計	総数	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳
転入者数	20,935人	1,117人	589人	308人	2,427人	3,046人	3,239人	2,239人	1,618人	1,359人
転出者数	21,657人	785人	448人	288人	1,823人	4,587人	3,864人	2,386人	1,462人	1,122人
社会増減数	-722人	332人	141人	20人	604人	-1,541人	-625人	-147人	156人	237人
≪地域別内訳≫										
東京都	764人	134人	99人	6人	62人	-417人	-180人	68人	180人	200人
その他道府県	-175人	-9人	-25人	13人	557人	-454人	15人	-47人	-28人	-12人
神奈川県内	-1,311人	207人	67人	1人	-15人	-670人	-460人	-168人	4人	49人
川崎・横浜	-738人	199人	58人	9人	-26人	-583人	-387人	-71人	60人	46人
三浦半島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県央	-153人	8人	-1人	-3人	9人	-41人	-15人	-37人	-10人	6人
湘南	-361人	8人	7人	3人	5人	-44人	-52人	-56人	-41人	0人
県西	-59人	-8人	3人	-8人	-3人	-2人	-6人	-4人	-5人	-3人

男女計	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
転入者数	1,111人	1,005人	776人	582人	346人	295人	259人	243人	209人	167人
転出者数	1,061人	938人	657人	519人	319人	348人	290人	274人	258人	228人
社会増減数	50人	67人	119人	63人	27人	-53人	-31人	-31人	-49人	-61人
≪地域別内訳≫										
東京都	102人	155人	128人	105人	71人	37人	-1人	16人	0人	-1人
その他道府県	-29人	-40人	-29人	-59人	-36人	-35人	33人	10人	3人	-3人
神奈川県内	-23人	-48人	20人	17人	-8人	-55人	-63人	-57人	-52人	-57人
川崎・横浜	4人	2人	50人	29人	9人	-14人	-34人	-29人	-26人	-34人
三浦半島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県央	-8人	-15人	-1人	1人	-1人	-9人	-9人	-11人	-6人	-10人
湘南	-11人	-37人	-20人	-8人	-18人	-33人	-18人	-14人	-17人	-15人
県西	-8人	2人	-9人	-5人	2人	1人	-2人	-3人	-3人	2人

備考　総務省「住民基本台帳人口移動報告（2023 年）」から内閣官房が再集計したデータより作成。

プロジェクトの方向性

○　三浦半島の活性化を進めるためには、三浦半島らしさにこだわった地域振興策が必要となることから、県では、「海」「観光」「三浦半島ライフ」をキーワードとして、それぞれの魅力を磨き、「マグネット力」を最大にして、三浦半島に「ヒト・モノ・カネ」を引き付けたいと考えています。

○　三浦半島地域においては、「観光」が主力産業の一つとなっていることから、観光の魅力を高めるため、観光客の周遊促進、滞在時間の拡大やリピーター化を促進するとともに、新たな観光客層の開拓を進めていけば、観光産業の活性化によって、三浦半島全体の地域経済に好循環を生み出し、稼ぐ力を向上させることができます。

○　しかしながら、2019 年には 3,553 万人であった入込観光客数が、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2020 年には 1,706 万人まで激減し、新型コロナウイルス感染症の感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）上の位置付けが２類相当から５類に移行した 2023 年においても、コロナ禍前の水準までには回復していない状況となっています（表２－１）。

○　また、観光客に占める宿泊客の割合は、減少傾向で推移しており、宿泊客による平均消費単価についても、県全体と比べて、低い状況となっています。（表２－２）

○　こうした三浦半島地域の観光における課題を解決していくため、再び外出需要が高まり、海外からのインバウンドも含め、観光による交流人口の増加が期待できるこの時期に、さらなる魅力向上に取り組む必要があります。

○　具体的には、三浦半島における大きな特徴である「**海・食の魅力**」を高めることによって、三浦半島らしさを際立たせるとともに、そのほかの「**地域の魅力**」を磨き、地域の担い手や民間事業者、各種団体と連携し、これらの観光資源をつなぐ仕組みづくりを進めます。さらに、「泊・食・観光」の各機能がまちなかに点在し、まち全体で１つのホテルのようなおもてなしを提供する分散型ホテル（地域まるごとホテル＠三浦半島）の取組みを、新たにプロジェクトに位置付けます。

○　また、三浦半島地域の人口動向は、2023 年の１年間で、20 歳代を中心に、722 人の転出超過となっていますが（表３）、都心から 40 ㎞～60 ㎞にある他の地域と比較しますと、三浦半島は、都心へのアクセスが良好な首都圏のベッドタウンとしての機能と、海、山、緑のあるカントリーライフを過ごすことができる自然環境の両方の魅力を兼ね備えている地域といえます。

○　このような地域特性を生かした暮らしぶり「三浦半島ライフ」においては、仕事とプライベートの両方を楽しむことができることから、この「暮らし」の魅力を更に高め、三浦半島への移住・定住を促進することで、転出超過を抑制します。また、地域や地域の人と多様に関わる関係人口※に着目し、将来の移住につなげる

ため、都心に近く訪れやすいという強みを生かし、都心部に住む若者や働く世代が継続的に地域と関わるきっかけを作り、新たな発想と地域とのふれあいを通じて三浦半島地域への深い愛着と想いを持った関係人口の創出を目指します。

※　**関係人口**：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、その中間の、地域や地域の人々と多様に関わる方

○　そして、「三浦半島ライフ」を充実させるためには、三浦半島地域の産業を活性化し、働く場を確保することなどにより、「**働く魅力**」を高めるとともに、子育てしやすい環境づくりや健康寿命の延伸などにより、「**住む魅力**」を高めることが必要となることから、そうした環境づくりに取り組みます。

○　以上のとおり、このプロジェクトでは、**「観光の魅力を高める」**ことと**「『半島で暮らす』魅力を高める」**ことの２つを大きな柱に据えて、その中の４つの“魅力”（「海・食の魅力」「地域の魅力」「働く魅力」「住む魅力」）を最大化し、この地域が直面する課題に対応していくため、12 項目の個別プロジェクトに取り組みます。また、**「観光の魅力」**と**「半島で暮らす魅力」**を相互に組み合わせた取組みを、民間と一体となって総合的に展開して、三浦半島地域の活性化を図ります。

大柱１　観光の魅力を高める

「観光の魅力を高める」では、三浦半島のイメージを象徴する「海・食の魅力」を高め、多くの観光客を惹きつけることができる「地域の魅力」を磨くことで、稼ぐ力の創出にもつなげます。

魅力１　海・食の魅力を高める

①　多様な海の楽しみ方の発信　　海・食　地域　働く　住む

マリンスポーツを楽しむきっかけづくりや新たな海の魅力の掘り起こし、楽しみ方の発信などを通して、三浦半島の海に新たな観光客を呼び込む仕掛けづくりを行います。

②　“みなと”のにぎわいづくり　　海・食　地域　働く　住む

マリーナ、海の駅、漁港といった施設を活用した地域のにぎわいづくりを行います。

③　地産地消ブランディング　　海・食　地域　働く　住む

三浦半島の食材のブランド力を高め、食と観光の連携を強化して観光客を呼び込みます。

魅力２　地域の魅力を高める

④　広域観光・周遊の促進　　海・食　地域　働く　住む

移動の利便性向上、観光客の分散化等の取組みにより、観光客の周遊促進を図ります。

⑤　外国人観光客等受入環境づくり　　海・食　地域　働く　住む

羽田空港との交通利便性などを生かし、国内外の知名度の向上を図るとともに、インバウンド需要を取り込むため、外国人観光客等の受入環境づくりを進めます。

⑥　新たな観光資源の発掘・磨き上げ　　海・食　地域　働く　住む

三浦半島観光の主体となっている首都圏からリピーターを獲得するとともに、新たな観光客層を開拓するため、観光資源を相乗的に活用し、観光資源のシーズ（種）を掘り起こすことにより、観光コンテンツを磨き上げます。

⑦　湘南国際村の活性化の推進　　海・食　地域　働く　住む

三浦半島の中心に位置している湘南国際村について、民間活力も活用の上、交流・連携・活用を推進します。

大柱2「半島で暮らす」魅力を高める

「『半島で暮らす』魅力を高める」では、都心へのアクセスが良好でありながら、雄大な海と深い緑に囲まれて暮らすことができる“ちょこっと田舎”という、三浦半島ならではの環境の中で「働く魅力」と「住む魅力」を高めます。また、関係人口の創出拡大の取組み等を通じて，三浦半島への新たな人の流れの創出を目指します。

魅力３　働く魅力を高める

⑧　しごと「三浦半島スタイル」の展開　海・食　地域　働く　住む

都心から 40 ㎞～60 ㎞圏内に位置し、豊かな自然に恵まれた三浦半島に相応しい柔軟な働き方ができる環境を生かして、新たな産業や起業家の創出・育成などに取り組み、三浦半島ならではの多様な働き方ができる仕事のスタイルを確立し、三浦半島地域内外に展開します。

⑨　産業の活性化　海・食　地域　働く　住む

三浦半島農業の生産性を向上させ、担い手農家の経営安定を目指すとともに６次産業化による高付加価値化を推進します。また、企業誘致の推進等により産業の活性化を目指します。

魅力４　住む魅力を高める

海・食　地域　働く　住む

⑩　若者や働く世代から選ばれる「半島ライフ」の提案

生産年齢人口（15 歳～64 歳）の転出抑制及び地域外（特に東京 23 区）からの転入者獲得を目標として、他の地域では体験することができない「半島ライフ」の提案等による関係人口の創出を図るとともに、移住・定住を促進します。

海・食　地域　働く　住む

⑪　子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域づくり

新たなモビリティサービスなど、先進技術の導入を図り、子どもから大人まで充実した人生を送ることができるよう、安心して子育てができる環境整備や人生 100 歳時代に向けた未病改善の地域づくりを進めます。

海・食　地域　働く　住む

⑫　脱炭素につながる環境にやさしい暮らしの実現

脱炭素型のライフスタイルを実現するために様々な取り組みを実施することで、地域課題の解決を目指すとともに、脱炭素の自分事化につなげていきます。

プロジェクトを推進する基盤づくり

地域づくりを担う団体・事業者等との連携促進

三浦半島地域では、民間事業者等が主体となった、地域活性化につながる具体的な取組みが活発に進められており、地域関係者が連携して取組みを進めるための組織形成などの動きも活発化してきています。

三浦半島地域の広域観光を推進するには、こうした地域発の盛り上がりが欠かせないため、地域に根差した民間主体の動きと積極的に連携していきます。

交通ネットワークの整備推進

◎　三浦半島で課題となっている渋滞対策について、日常生活や観光などの経済活動を支える交通を活性化するため、様々な交通モードを活用し、半島内の安全でスムーズな移動、三浦半島へのアクセスの向上などの視点から検討します。

◎　道路ネットワークの整備については、引き続き、横浜湘南道路や横浜環状南線といった自動車専用道路の整備を促進するとともに、都市計画道路 西海岸線や三浦半島中央道路などの観光地へアクセスする道路の整備を進めていきます。

◎　また、三浦半島地域への新たな交通アクセスとして、2024 年３月から本格運航を開始した海上交通の定着を図るとともに、神奈川版ライドシェアの運行などにより、地域の移動手段の確保に努めていきます。

プロジェクトのゴール

このプロジェクトは、県の地方創生に向けた「第３期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付け、同戦略の期間中（2027 年度まで）に、「ヘルスケア・ニューフロンティア」「人生 100 歳時代」「ＳＤＧｓの推進」といった他の県施策との連携を図りながら、４つの魅力（「海・食の魅力」「地域の魅力」「働く魅力」「住む魅力」）を最大化することによって、

- 地域のにぎわいをつくりだし
- 仕事と生きがいを創出し
- 人口減少を食い止める

というゴールに向かって、12 項目の個別プロジェクトが連動して、それぞれの機能が最大限に発揮されるよう、持続的に取り組みます。

プロジェクトの指標※

指標	目標値 (2027 年)
三浦半島地域４市１町の社会増減数 （基準年（2023 年）に対する増減数）（暦年）	＋730 人

※　**プロジェクトの指標**：本プロジェクトの政策の達成度合いを一定の期間を単位として検証するためのもの。

プロジェクトのＫＰＩ※

ＫＰＩ	実績値	目標値
三浦半島地域４市１町の観光客消費額（暦年）	1,370 億円 (2023 年)	1,450 億円 (2027 年)
三浦半島地域４市１町の入込観光客数（暦年）	2,740 万人 (2023 年)	3,723 万人 (2027 年)
県及び市町への移住相談件数（注）	395 人 (2023 年度)	700 人（調整中） (2027 年度)

注）　移住セミナーや移住ツアー、お試し移住等への参加者数（１人を１件としてカウント）を含む。

※　**ＫＰＩ（重要業績評価指標）**：Key Performance Indicator の略称で、実施した施策・事業の進捗状況や効果を検証する際に、達成の度合いを測るために設定するもの。

プロジェクトの構成

４つの魅力を最大化する

Ⅰ　観光の魅力を高める

１　海・食の魅力を高める

①多様な海の楽しみ方の発信
②“みなと”のにぎわいづくり
③地産地消ブランディング

２　地域の魅力を高める

④広域観光・周遊の促進
⑤外国人観光客等受入環境づくり
⑥新たな観光資源の発掘・磨き上げ
⑦湘南国際村の活性化の推進

Ⅱ　「半島で暮らす」魅力を高める

３　働く魅力を高める

⑧しごと「三浦半島スタイル」の展開
⑨産業の活性化

４　住む魅力を高める

⑩若者や働く世代から選ばれる「半島ライフ」の提案
⑪子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域づくり
⑫脱炭素につながる環境にやさしい暮らしの実現

プロジェクトを推進する基盤づくり

地域づくりを担う団体・事業者等との連携促進

交通ネットワークの整備推進

プロジェクトの計画期間

2025 年度～2027 年度

１　多様な海の楽しみ方の発信

豊かな海に囲まれた三浦半島では、初心者向けのアクティビティから本格的なマリンスポーツまで気軽に体験できる環境が整っていますが、これらは陸上のスポーツと比べて費用がかかるなど、参加へのハードルは高くなっています。

そこで、そのハードルを引き下げるなど、多様な海の楽しみ方を発信し、海の魅力で観光客を呼び込みます。

また、夏以外の時期にも呼び込むため、新たな海の魅力を掘り起こし、新たな観光客を呼び込む仕掛けづくりを行います。

プロジェクトのねらい

○　多様な海の楽しみ方の発信、新たな海の魅力の掘り起こし
○　マリンスポーツの普及、その聖地としての三浦半島ブランドの確立

想定される取組み

※　「県」は県全域を対象にしている取組みも含みます。
※　「市町」は４市１町いずれかの取組みになります。
（以下同じ）

○　観光資源としての海の活用（県・市町・民間）

三浦半島の海は、“遊ぶ”楽しさにあふれています。そこで、海岸に来ていただくだけでも、三浦半島の海の魅力を知っていただけるよう、プロジェクションマッピングの海浜投影といった夜に行うイベントなども実施し、観光資源として海を活用します。

○　マリンスポーツを通した海の魅力発信（県・市町・民間）

三浦半島の海で活動する事業者等と連携し、気軽にマリンスポーツに親しんでいただくことができるイベント等を開催します。

○　海水浴場等の環境整備（県・市町・民間）

持続可能で良質な海水浴場やマリーナを維持するため、国際環境認証であるブルーフラッグの取得を推進するなど、海水浴場のにぎわいを創出します。

また、鎌倉海岸（由比ガ浜）において、障がいのある方やその家族がマリンスポーツ等に親しむことができる「バリアフリービーチ」を開催します。

○　国際的スポーツイベントの開催（県・市町・民間）

ウインドサーフィンワールドカップを津久井浜海岸、三浦海岸沖で開催するほか、大会のブランド力を生かして地元の特産品を販売するなど、地域振興策を推進します。引き続き大会の魅力を高めていくことにより、三浦半島の海の国際的なブランド力の向上を図り、マリンスポーツによるまちづくりを進めます。

２　“みなと”のにぎわいづくり

三浦半島には、海（プレジャーボート）と陸（自動車）の両方からアプローチすることができるマリンスポーツ・マリンレジャーの拠点である「海の駅」が７か所あります。

また、４市１町の全てに漁港があり（県内 26 漁港のうち三浦半島地域に 13 漁港）、さらに、変化に富んだ海岸線には多くのマリーナがあり、海上交通「かながわシーライド」の発着場所となっているマリーナもあります。

こうした“みなと”は、三浦半島の豊かな自然や海からの恵みを象徴する地域資源となっていることから、そのにぎわいをつくるための取組みを進めます。

プロジェクトのねらい

○　海上交通「かながわシーライド」の定着・発展
○　海業等の推進による地域経済の活性化

想定される取組み

○　海上交通「かながわシーライド」の展開（県・市町・民間）

相模湾で海上交通が定着し、更に発展させていくため、運航事業者と連携したプロモーションを展開するとともに、葉山港における港湾整備について検討します。

また、相模湾をクルージングするツアーの造成等により、海からの景観を観光コンテンツとした海洋ツーリズムを展開し、三浦半島の海に多くの人を呼び込みます。

○　水産業の活性化の推進（県・市町・民間）

水産業の活性化を図るため、資源回復計画の推進や、種苗放流による栽培漁業の推進、三崎漁港の高機能・長寿命化、漁業経営の効率化、漁業就業支援等を行います。

○　海業の推進（県・市町・民間）

漁業者の高齢化や魚価低迷、水産資源減少などの問題が深刻化していることから、漁業と観光やレジャーなどの他産業と連携した「海業」に取り組むことで、漁業者の所得の向上を図るとともに、地域の新しいにぎわいを創出します。

○　三崎漁港二町谷地区の開発促進（県・市町・民間）

「三浦市二町谷地区海業振興をめざす用地利活用プロジェクト」に基づき、二町谷地区におけるブランディングイベントの実施支援や三崎漁港へのスーパーヨット誘致活動等を行い、引き続き関係機関と調整しながら、国際的な経済活動拠点の整備を行います。

３　地産地消ブランディング

三浦半島は、都心から日帰りでアクセスすることができる観光地であり、首都圏のベッドタウンでもありますが、豊かな農産物、畜産物、水産物に恵まれており、第一次産業が盛んな地域でもあります。

このため、三浦半島には、四季折々に旬を迎える様々な食材があることから、観光の観点からの「地産地消」の推進に向けたブランディングを強化し、多くの方に「食」を求めて産地まで訪れていただけるような取組みを行います。

プロジェクトのねらい

○　三浦半島の「食」の魅力を生かした稼ぐ力の向上
○　三浦半島の食材のブランド力強化・産地の知名度向上
○　三浦半島の特性を生かした「食」による観光客の呼び込み

想定される取組み

○　農水産物のブランド化（県・市町・民間）

農業協同組合や漁業協同組合等と連携し、食材のブランド力をさらに高めるとともに、その産地の知名度を向上させることによって、産地そのものが観光資源となるよう、食と観光の連携強化に取り組みます。

また、新たな特産品づくりに取り組む事業者等への支援など、多様な地域資源を生かした特産品の開発に積極的にチャレンジできる環境づくりを行います。

○　地域の産品を活用した情報発信（県・市町・民間）

アンテナショップ「かながわ屋」における地場産品の展示・販売や、インターネット等を活用したプロモーションを通じて、地場産品の魅力を広く発信し、知名度の向上を図るとともに、それによる新たなファンの獲得やマーケットの開拓を目指します。

また、地元食材を使用したイタリア料理などを店舗の自由なアイデアで考案し、提供、販売するなど「三浦半島はイタリア半島プロジェクト※」の取組みを推進します。

さらに、三浦半島内の農畜水産物や地場産品、６次産業の加工品等をふるさと納税の返礼品として活用して全国的なＰＲを行うことで、ブランド価値を上げるとともに、生産者への支援にもつなげていきます。

※　**三浦半島はイタリア半島プロジェクト**：三浦半島とイタリア半島は、ブーツ型の形のほか、食文化や気候など地域環境の特徴に類似点が多いことに着目し、「三浦半島はイタリア半島」をキーワードに三浦半島の地域活性化を進めるプロジェクト。三浦半島の豊かな食材の情報発信に加え、イタリアの地域活性化手法を参考にした取組みなどを進めている。

４　広域観光・周遊の促進

日帰り観光客が多く、観光客の消費単価が伸びないという三浦半島観光の課題を解決するため、広域観光圏の形成に向けて、三浦半島の観光を点から線へ、さらに線から面へと広げて観光の周遊化を図ります。また、多様なプロモーション手法を活用して、三浦半島の観光の魅力を一体的に発信します。

プロジェクトのねらい

○　地域内の移動の利便性向上
○　周遊促進による観光客の平均消費単価の増加・滞在時間の拡大

想定される取組み

○　三浦半島の周遊促進（県・市町・民間）

三浦半島内の周遊の促進を図るため、電動モビリティ（EV、電動キックボード及び電動自転車等）の積極的な導入や海上交通「かながわシーライド」の定着・発展に向けた取組みを進めます。

また、地域の豊かな自然環境を生かして広域的な周遊を促進するサイクルツーリズムの取組みを推進します。

さらに、夜間にタクシー不足が生じている三浦市域において、神奈川版ライドシェア「かなライド@みうら」を運行し、移動の利便性の向上を図ります。

そのほか、県と連携協定を締結したベンチャー企業が開発中の自走式ロープウェイについて、導入に適している地形や道路の条件を整理するなど、技術的な側面から研究するとともに、三浦半島を含む県内において導入可能性のあるエリアの検討を行います。

○　観光の核づくり地域を拠点とした新たな広域観光圏の創出（県・市町・民間）

横浜・鎌倉・箱根に次ぐ、国内外から多くの観光客が訪れる魅力ある観光地域づくりを推進するため、観光の核づくり地域（城ケ島・三崎地域）の取組みをもとに、新たに周辺地域を包括した連携エリアを形成し、エリア内の周遊を促す取組みを支援することで、県全体としての観光の魅力強化、さらなる誘客につなげます。

○　三浦半島の魅力発信、観光客の分散化（県・市町・民間）

県観光サイト「観光かながわＮＯＷ」や民間事業者等が運営する観光Ｍａａ Ｓ※等を最大限活用し、観光スポットのほか、三浦半島で実施する多種多様なイベント情報などをタイムリーに発信します。

また、観光客が集中する一部の地域では、観光地の混雑状況を発信することで、観光客が分散するような行動変容を促し、観光の時間的、場所的分散化を図ります。

※　MaaS:Mobility as a service の略語。観光地における自家用車以外の複数の交通手段（鉄道、バス、レンタサイクル、レンタカーなど）をスマホなどを活用し、検索、予約、決済などをワンストップで行う仕組み。

５　外国人観光客等受入環境づくり

三浦半島は、都心部や空の玄関口となる東京国際空港（羽田空港）等からのアクセスが良いことから、コロナ禍前は多くの外国人観光客が訪れていました。コロナ禍によりインバウンド市場が大幅に縮小しましたが、インバウンドの急激な回復を踏まえ、外国人観光客を呼び込み（インバウンド需要を取込み）、三浦半島の国際的な知名度を上げることができるよう、外国人観光客等の受入環境づくりを進めます。

プロジェクトのねらい

○　三浦半島を訪れる外国人観光客等の増加
○　三浦半島の国際的知名度の向上

想定される取組み

○　観光関連施設の利便性向上（県・市町・民間）

県内の観光施設に対し、外国語の観光案内板の整備や和式トイレの洋式化など外国人観光客の受入環境整備に対して支援します。

また、非対面決済の導入、セルフレジの設置などコロナ禍で顕在化した新たな観光需要に対応する体制整備に対して支援します。

○　おもてなし人材の育成（県・市町・民間）

自然や歴史、食、文化などの観光コンテンツに高い専門性を有する通訳ガイドを育成し、「かながわ認定観光案内人（Official Kanagawa Tour Guide）」として認定し、神奈川を訪れた外国人観光客の満足度を高めます。

○　外国人観光客向け広報（県・市町・民間）

外国人の目線で必要とされる情報を掲載した外国語観光情報ウェブサイトや外国語パンフレットによる情報発信により、外国人観光客の誘客を促進し、三浦半島の知名度の向上を図ります。

○　健全な民泊サービスの推進（県・市町・民間）

観光客の多様な宿泊ニーズに対応するため、健全な民泊サービスの推進を図ります。

また、国内外の教育旅行向けに、農山漁村が有する豊かな自然や歴史、文化、農林水産物などの地域資源を活用した地域ならではの民泊を推進する取組みを支援することで、三浦半島の知名度の向上を図ります。

6　新たな観光資源の発掘・磨き上げ

観光客の消費単価を上げるには、三浦半島内にある多数の観光資源の周遊を促すことが必要です。

そこで、これまで活用が進んでいなかった新たな観光資源を発掘するとともに、三浦半島固有の資源を生かしたストーリー性のある回遊パッケージを展開し、付加価値の高い観光コンテンツに磨き上げます。

プロジェクトのねらい

○　三浦半島らしい観光資源の発掘・磨き上げ
○　地元の連携強化

想定される取組み

○　三浦半島固有の観光資源の活用・磨き上げ（県・市町・民間）

三浦半島地域には、鎌倉時代から続く文化や歴史的史跡が各地に残っているほか、猿島、軍港など近代化遺産も数多く存在しています。

また、城ケ島の馬の背洞門など自然の力によって作り出された景観も観光客を引き寄せています。こうした歴史的、自然的な価値を有する地域の宝を掘り起こし、地元とともに新たな観光資源・体験プログラム等を造成し、その磨き上げに取り組み、地域活性化につなげます。

○　新たな滞在スタイルの提供（県・市町・民間）

「三浦半島はイタリア半島プロジェクト」の取組みの１つとして、イタリアの地域活性化事例であるアルベルゴ・ディフーゾ※などを参考に、この地域ならではの自然や食、歴史、文化といった観光資源と宿泊施設をつないでまち全体で観光客をもてなす「地域まるごとホテル@三浦半島」事業を展開します。

※　**アルベルゴ・ディフーゾ**：イタリアで少子高齢化による過疎対策、特に「空き家問題」を観光産業で解決しようという取組みを指し、集落内の空き家等をホテルとして再生し、レセプション機能を持つ中核拠点を中心に、宿泊施設やレストラン等を水平的にネットワーク化（一体化）するというもの。

○　新たな観光拠点の形成（市町・民間）

城ケ島西部地区の再整備や、二町谷地区における高級リゾート計画、城山地区での観光客の誘客及び滞在時間を延長するための宿泊施設等の整備に対する支援といった官民連携による取組み等により、新たな観光需要の呼び込みを図ります。

○　小網代の森の保全と活用（県・市町・民間）

小網代の森の保全を行う一方で、インフォメーションスペースやトイレなどの整備を踏まえ、小網代の森の活用も進めていきます。

○　里地里山の保全と活用（県・市町・民間）

里地里山は、良好な景観の形成や生活文化の伝承など、地域の魅力となる多面的機能を有しています。

これらの多面的機能をより発揮させ、次世代へ継承するため、里地里山の保全活動に関する情報発信を行い都市住民の参加を促すなど、地域における里地里山の保全活動を支援します。

7　湘南国際村の活性化の推進

湘南国際村は、“歴史と文化の香り高い 21 世紀の緑陰滞在型の国際交流拠点”として 1994 年に開村しました。

「海」や「食」などの魅力を生かして三浦半島地域の活性化を図っていく上で、湘南国際村は三浦半島の中心部に位置しており、新たな周遊地点となりうる場所と考えられます。そこで、「湘南国際村基本計画」に基づき、民間活力も活用しながら湘南国際村を活性化するとともに、そのにぎわいを三浦半島全体の活性化につなげていくことを目指します。

プロジェクトのねらい

○　生活環境の向上・交流人口の増加
○　地域資源の新たな活用

想定される取組み

○　湘南国際村ＢＣ地区（めぐりの森）※の利活用（県・市町・民間）

県が所有する湘南国際村ＢＣ地区や仮設駐車場として利用している土地に民間活力を活用しながら、自然環境を生かした芸術、スポーツ、レクレーション機能を強化することによって、さらなる活用を促進します。

※　湘南国際村ＢＣ地区（めぐりの森）：湘南国際村の東側に位置し、大楠山に連なる緑の再生・保全と活用を図る地区。

○　湘南国際村の交流・連携の強化（県・市町・民間）

国際的にも人気が高い葛飾北斎というコンテンツとデジタル技術を活用したイベントを開催し、国際拠点としての湘南国際村の魅力を向上させます。

８　しごと「三浦半島スタイル」の展開

三浦半島では、コロナ禍を経て、テレワークの導入などＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）化が進んだことにより、働き方も多様化してきました。また、様々な事業者や団体が地域課題の解決を目指し、主体的に取組みを行うことで、三浦半島ならではの働く魅力を創出しています。

このような流れを更に発展させていくため、誰もが働きやすい就労機会の創出を進めます。また、多様な担い手が三浦半島の地域課題解決への取組みを行いやすい環境づくりを推進し、三浦半島内外に取組みを発信していきます。

プロジェクトのねらい

○　地域経済の核となる、新たな雇用の創出
○　地域の持続的な成長に向けた多様な主体との連携促進
○　三浦半島ならではの働く魅力の創出

想定される取組み

○　地域課題を解決するしごとの創出（県・市町・民間）

空き店舗を活用した地産地消レストランやゲストハウスの運営など、地域の課題解決や活性化に取り組む事業者が増えてきていることから、そうした動きを加速化させるため、地域課題を解決する起業等に挑戦する人を支援します。

○　多様な主体との連携促進（県・市町・民間）

三浦半島の地域活性化に意欲のある事業者や団体など、多様な主体が交流し、協働・連携のきっかけを見つける場を設定し、共通の課題意識を持つ事業者同士の連携事業を創出します。

○　地域に新たな価値を生み出す人材の育成（県・民間）

地域に新たな価値を生み出す人（地域コーディネーター）の育成を行うプログラムを実施します。

○　女性の新しい働き方の推進（県・市町・民間）

女性が育児と仕事を両立できる環境づくりを目指し、時間や場所に制限なく働けるテレワーカー人材育成プログラムを実施することで、女性の新しい働き方の実現と、就業への後押しを支援します。

９　産業の活性化

三浦半島は、全国有数の露地野菜の産地となっていることから、首都圏の大消費地への生鮮野菜の供給源である三浦半島農業の生産性を向上させ、担い手農家の経営安定を目指します。

また、既存産業の高付加価値化や、企業誘致などを進めることで、稼ぐ力を高め、地域の活性化を進めます。

プロジェクトのねらい

○　担い手農家の経営安定による三浦半島農業の発展
○　企業誘致の推進による産業の活性化
○　既存産業の活性化

想定される取組み

○　畑地かんがい施設や基幹的農業用水路等の整備推進（県・市町・民間）

地下水を利用した畑地かんがい施設等を総合的に整備することにより生産性を高め、安定的で高品質な農産物の供給と、農業の担い手の安定的な経営を実現します。

また、基幹的農業用水路の整備に併せて管理道等を整備し、維持管理や営農の省力化を図ることにより、生産性の向上を目指します。

○　農地・農業用施設の地域ぐるみで取り組む保全活動の推進（県・市町・民間）

農業者の減少や高齢化等の進行に伴う集落機能の低下により、農地等の適切な保全管理に支障が生じつつあることから、農業資源の保全を図るため、地域ぐるみで取り組む農地の維持活動や農業用施設の長寿命化等に対して支援します。

○　農業の担い手育成（県・市町）

新規就農者の確保育成と農業の将来を担う人材を育成するため、必要な技術支援と農業経営者としての能力向上の支援を行い、意欲ある中核的な農家の育成に取り組みます。

○　【再掲】水産業の活性化の推進（県・市町・民間）

水産業の活性化を図るため、資源回復計画の推進や、種苗放流による栽培漁業の推進、三崎漁港の高機能・長寿命化、漁業経営の効率化、漁業就業支援等を行います。

○　６次産業化による農畜水産加工品及びサービスの高付加価値化（県･市町･民間）

農業、水産業等が盛んで、首都圏という大きなマーケットを有している三浦半島地域の強みを生かし、付加価値の高い新たな農畜水産加工品の開発や観光と組み合わせたサービスの創出を図ることにより、６次産業化を支援します。

○　企業誘致の推進（セレクト神奈川ＮＥＸＴなど）（県・市町・民間）

企業誘致施策「セレクト神奈川ＮＥＸＴ」により、国内外からの企業誘致や県内企業の投資の促進に取り組み、県内経済のさらなる活性化と雇用の創出を図ります。

○　起業家創出拠点でのベンチャー企業の創出（県）

県経済を牽引するベンチャー企業の創出・育成を促進するため、起業準備者をベンチャー企業へと育てていくための拠点において、支援プログラムを実施します。

10　若者や働く世代から選ばれる「半島ライフ」の提案

三浦半島地域は、自然豊かな「半島」にありながら、都心と容易に行き来することができる距離にあるため、都会暮らしと田舎暮らしの両方を体験することができます。

こうした他の地域では体験することができない「半島ライフ」を若者や働く世代を中心に提案することで、関係人口の創出を図るとともに、三浦半島への移住を促進します。

プロジェクトのねらい

○　関係人口の創出を通じた移住・定住の促進
○　地域特性を生かした新たな視点による地域ブランディング

想定される取組み

○　関係人口の創出（県・市町・民間）

新たな関係人口を創出するため、関係人口として活動するための情報や活動モデルを紹介し、将来的な移住につなげます。

○　魅力的な「半島ライフ」の発信（県・市町・民間）

都心部の住民等を中心にアプローチを強化し、新たな移住潜在層の掘り起こしを実施します。

○　移住・定住相談対応等の充実（県・市町・民間）

東京・有楽町の「ちょこっと田舎・かながわライフ支援センター」における移住相談等を実施して、三浦半島地域への移住を促進します。

○　空き家の利活用（県・市町・民間）

地域内での増加が社会課題となっている空き家について、空き家バンクへの登録促進、専門家と連携した空き家活用の検討など、空き家を移住の受け皿として活用していきます。

○　文化芸術やスポーツ等による地域ブランディング（県・市町・民間）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシー（遺産）を継承するスポーツイベントや、若年層を中心に競技人口が拡大してきている「アーバンスポーツ（ＢＭＸ、ストリートダンス、パルクール等）」「e スポーツ」をはじめ、文化芸術やスポーツ等、地域の特性やポテンシャルを生かした地域ブランディングを進めます。

11　子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域づくり

若い世代が未来に希望を持ち、希望する人数の子どもを生み育てることができるよう、安心して子育てができる環境づくりに取り組みます。また、医療・介護分野でのＤＸを通じたサービスの効率化、質の向上などに取り組み、誰もが住み慣れた地域で安心して生活し続けることができる持続可能な医療・介護の基盤の構築を目指します。

プロジェクトのねらい

○　新婚世帯への支援の充実
○　地域における子育て支援の充実
○　医療・介護分野でのＤＸ化の推進
○　人生 100 歳時代におけるライフデザイン設計の促進

想定される取組み

○　新婚世帯への支援（県・市町）

新婚世帯に対して、住居の取得費、家賃、引越費用等を支援するなど、若い世代を経済的にサポートします。

○　保育所や放課後児童クラブなどへの支援（県）

保育所や認定こども園等の整備や運営を行う市町や、放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）の整備や運営を行う市町への支援を行います。

○　地域における子育て支援（市町）

妊娠期から子育て期にわたるまでの様々なニーズに対して、切れ目のない相談支援や、地域で子育ての手助けをしていく仕組みづくりなど、地域における子育て支援サービスの充実を図っていきます。

○　安全・安心な医療・介護サービスの提供（県・民間）

患者の医療・介護情報を、デジタル技術を活用して、地域の医療機関、薬局、介護施設等の間で、相互共有するためのネットワークの構築により、医療・介護提供の更なる質の向上を図ります。

○　人生 100 歳時代におけるライフデザイン支援（県・市町・民間）

人生 100 歳時代において、子どもから大人まで生き生きと充実した人生を送ることができるよう、かながわ人生 100 歳時代ネットワークが中心となって、様々な学びの場から活動の場につなぐプロジェクトを推進するとともに、学びの機会の拡大や、情報発信を通じた県民の意識転換を図ります。

○　後期高齢未病改善の推進（県・市町）

高齢者が、自らフレイル（虚弱）を早期に発見し、改善の取組みを実践できるようにするため、市町村や関係機関と連携し、自己チェックの機会を提供するとともに、フレイル対策の重要性について啓発を行います。

○　コミュニティの再生・活性化（県・市町・民間）

コミュニティの再生・活性化を図るため、地域課題と向き合っている市町や企業・団体等と連携し、取組事例の共有や課題解決に向けた議論を行うとともに、地域で活躍している団体等の取組みを後押しします。

12　脱炭素につながる環境にやさしい暮らしの実現

県では 2022 年に三浦半島地域を神奈川県版脱炭素モデル地域に設定し、市町村、企業など様々なステークホルダーと連携し、地域課題の解決や地域活性化にも資する脱炭素化に向けた取組みを実施しています。また、域内全ての市町がゼロカーボンシティを表明し、官民で連携した取組みも活発に進められています。

こうした取組みを通じて、三浦半島らしいライフスタイルを実現します。

プロジェクトのねらい

○　藻場再生によるブルーカーボンの推進
○　脱炭素社会の実現に向けた自分事化

想定される取組み

○　再生可能エネルギー等の導入促進・利用拡大（県・市町・民間）

太陽光発電など、再生可能エネルギーの導入・利用促進を図り、再生可能エネルギーの地産地消を推進します。

○　【一部再掲】電動モビリティ・MaaS の推進（県・民間）

電動モビリティ（EV、電動キックボード及び電動自転車等）の積極的な導入を推進することで、地域住民のライフスタイルの脱炭素化を促すとともに、自家用自動車の利用減少による交通渋滞の緩和など、地域課題の解決を同時に図ります。

○　ブルーカーボンの推進（磯焼け対策）（県・市町・民間）

４市１町でブルーカーボンの取組みに係る連携体制を構築し、藻場の再生やブルーカーボンの啓発活動などを実施します。また、県においても水産技術センターが生産した早熟カジメ等の海藻種苗を育成し、藻場の再生とブルーカーボンの創出をめざします。

○　プラごみゼロの推進（県・市町・民間）

「かながわプラごみゼロ宣言」等に基づき、事業者との連携や県民への普及啓発を通じて、リサイクルされない、廃棄されるプラスチックごみの削減を目指します。

また、ペットボトルの使用抑制やレジ袋削減につながる行動変容の促進など住民や観光客にＳＤＧｓの推進や環境保全へのさらなる意識醸成を図るとともに、三浦半島の豊かな海を守るため、海洋プラスチックごみの削減に向けた取組みを推進します。

プロジェクトの推進

○　このプロジェクトの推進に当たっては、本県の諸計画との整合を図りながら、県と４市１町はもとより、地元の皆様と連携・協力しながら、12 項目の個別プロジェクトに取り組んでいきます。

○　このプロジェクトの計画期間中は、新たなアイデアや提案に対して、必要と判断された取組みについては、関係者等の意見を踏まえ、柔軟に対応することとします。

○　このプロジェクトに示した施策の進捗状況について、成果や課題を分析し、必要な改善や見直しを図っていく必要があります（Ｐｌａｎ 計画、Ｄｏ 実施、Ｃｈｅｃｋ 評価、Ａｃｔｉｏｎ 改善のＰＤＣＡサイクルの構築。）。このため、プロジェクトに示した、指標やＫＰＩ（重要業績評価指標）などを基に、実施した施策・事業の効果を検証します。

○　また、プロジェクト改定時に想定し得なかった事態が生じた場合には、上記にとらわれず、その時々の状況に応じた効果検証や柔軟な政策展開を図るものとします。

神奈川県	**政策局自治振興部地域政策課** 横浜市中区日本大通１　〒231-8588 電話(045)210-3260　FAX(045)210-8837